

ソフトパワーから見た日本のアニメ・マンガの影響
-世界の人々に対するアンケートの結果と分析-

北海道大学大学院環境科学院
環境起学専攻 実践環境科学コース
游 宇龍

ソフトパワーは、軍事力や経済力を背景として他国に圧力を掛けるハードパワーの対義語であり、魅力によって他国の共感を得る力として、Joseph S. Nye(1990)が提唱した概念である。日本のアニメ・マンガは、ファンによる活動(ファンサブ)によって世界に広がった(González, 2007)。その過程はソフトパワーとして、アニメ・マンガのグローバル化に貢献している。日本国政府も、アニメ・マンガが持つソフト・パワーに注目し、クールジャパンなどを打ち出している。各国・地域毎の調査・研究はあるものの、世界のアニメ・マンガファンに帯する調査は十分ではない。日本のアニメ・マンガが人々にどのような影響を与えるかに関する研究は数少なく、ジェンダーの形成や平和や暴力への子供や若者の認識への影響することが指摘されており (e.g., e.g., 2017; Portes & Haig, 2013; 藤村・伊藤, 2004; 藤本ら, 2007)、日本のアニメ・マンガは、持続可能な開発目標(SDGs)の達成にも間接的に影響を及ぼすことが考えられる。

本研究は、既存の調査・研究で指摘されてこなかった、日本のアニメ・マンガファンによる拡がりや、彼らに与えた影響を示すために、世界中からアクセスがあるアニメフォーラムサイトを利用する。必然的に、英語が使える熱心なファンが対象となり、各国のファンを定量的に代表しているわけではない。先行研究を踏まえ、2020年4月と8月に上記のサイトで呼び掛け、アニメ・マンガを見るときにの状況や、アニメ・マンガへの思い、影響などについて、アンケートを実施した(回答数465人)。11月に実施した補足アンケートでは、アニメ・マンガを見ているどんな言語・手段等を把握した(回答数139人)。また、裏付けを取る協力者のメールでの質問やフォーラムのスレッドでのやりとりも実施した。併せて65ヶ国・地域から回答があった。そのうち27ヶ国・地域が1名のみでの回答であり、日本のアニメ契約作品がない20ヶ国・地域も含まれていた。例えば、回答者22人がいたブラジルは、契約作品がないが、スレッドのやりとり「ポルトガル語はスペイン語に似ていることで、スペイン語でアニメを見ている」ということから、そのような国でもファンがいることが分かった。英語の視聴者の回答者の半数は英語が母語でない人々、字幕を利用している回答者も約9割だった。好きな作品3つとして挙げられた325作品では、上位10作品のみが回答者5人以上、170作品が回答者一人のみだった。約7割の回答者が、人生にとって「とても重要」「重要」を選択しており、回答者は熱心なファンと見なせるだろう。約2/3の回答者が、価値観について何らかの「影響を受けた」と回答しており、努力や恋愛、正義・善悪、家族などが約2,3割で選択されている。また、約8割の回答者が何らかの勉強・仕事を始めており、好みのアニメ・マンガに影響を受けて音楽やスポーツを始めている。約1割の回答者が日本語の勉強をはじめている点は、熊野(2010)と調和的である。本研究は、日本のアニメ・マンガが持つソフト・パワーにより、特定の国・作品に集中しているのではなく、世界各地に様々な好みを持ったアニメ・マンガのファンがいること、彼らの価値観や勉強や仕事などで様々な影響を受けていることが示せた。